

新 世界洋上紀行

洗練のヨットスタイルを愉しむラグジュアリーな海の旅

第12回 Phoenix Reisen "AMADEA"

フェニックスライゼン「アマデア(初代飛鳥)」、夏のアイスランドクルーズ〈前編〉

ドイツのクルーズ会社フェニックスライゼンが運行する「アマデア」、1991年三菱重工長崎造船所で建造された初代「飛鳥」である。客船業界ではこの年は日本のクルーズ元年と言われ、その後、初代「飛鳥」は日本のクルーズマーケットを力強く牽引してきた。そして2006年にドイツのクルーズ会社フェニックスライゼン社に移籍、現在はドイツマーケットのクルーズ船として運航されている。蒸し暑い日本を離れ、フィヨルドの海輝く夏のアイスランドへ。今回は、その前編をお届けしよう。

text: Masaaki Higashiyama

photo: Masaaki Higashiyama

special thanks: Phoenix Reisen GmbH

Mercury Travel

<http://www.mercury-travel.com/phoenix/>





陽光降り注ぐだけがクルーズではない。アイスランド、グリーンランドへ向かう1ヶ月にも及ぶ夏のロングクルーズ。ドイツ人船客はその洋上にいる幸せと喜びをかみしめているかのようだ。



8/9 ブレーマーハーフェン (ドイツ)

ドイツ・ハンブルク空港から列車に乗ること2時間、北海に面するブレーマーハーフェンにやって来た。連日30℃を超える猛暑の日本に比べれば格段に過ごしやすい気候、一年でいちばんいい季節に街行く人もどこか笑顔が多いように見える。

午後3時、乗船が始まる。フェニックスライゼン「アマデア」、2006年までの初代「飛鳥」。ギャングウェイを渡り船内へ入るやいなや、何ともいえず懐かしく、そしてほっとした感じがした。それはたぶんエンタランスに敷き詰められたカーペットや、レセプションの背後の壁紙などの趣味によるものであろう。ドイツの船会社に移っても、どこかこの船は日本船の雰囲気を出しているのだ。

キャビンは、ひとつのベッドは昼間はソファにしつらえられ、他方は壁に収納されているため、日中は広いリビングとして快適に過ごせ、夜には十分なベッドルームとなる。全室バスタブ付きも、我々日本人にはとてもありがたい。

午後7時、「アマデア」はまだ明るいブレーマーハーフェンを出港、アイスランドを目指し明日から2日間終日航海日が続く。

ディナーのためメインダイニングへ。この船ではディナーは午後

7時から始まるが、とくに時間やテーブルの指定はない(フリーシーティングと呼ばれる)。初めて乗るクルーズ会社、どんな食事が出るのかとても興味深いところ。スモークサーモン、コンソメスープ、ポークテンドーローインをオーダー。お味はかなりいけると踏んだ。アマデアは定員600名だが、やはりこれぐらいのサイズの船では概ね美味しい食事が供される。2,000人を超えるような大型船ではそれは期待できない。そもそも物理的に無理なのだ。それは皆さんのクルーズ選びのひとつの指針としていただきたい。

私のテーブルに、ドイツ人ご夫妻が後に座った。残念ながら私はドイツ語が出来ない。しかしこういった経験は、フランスの「カンパニー・デュ・ポナン」のときにも経験している。こんなときは、とにかく自分から出来る限りのアクションを起こす。例えば自分の席の前にあったパンのバスケットを差し出してあげれば、相手もありがとうと言って、そこから片言で話し始める。ここから一人二人と友達が増えてゆく楽しさ。だから私は、明日以降が楽しみで仕方がない。

ディナーの後はショーなどイベントが盛りだくさん。レイトナイトスナック(夜食)もあったが、前日の飛行機であまり眠れなかった疲れが出てきたため、今夜は早めの就寝とした。

船内いたるところに初代「飛鳥」の面影が残る。それはドイツ人オーナーが「飛鳥」への尊敬の念を持って意図的に残したものだ。4フロアにも及ぶ田村能里子氏作の壁画「季の奏(しらべ)」は圧巻。



8/10 終日クルージング

まったく揺れを感じることもなくぐっすり眠り、そして穏やかな朝を迎えた。キャビンの窓からわずかに光が差し込んでいる。天気は悪くないらしい。

日本に比べれば緯度の高いドイツからさらに北へ向かうクルーズ、気温は20度前後と涼しく快適である。朝の散歩がてら、チーク材で敷き詰められたプロムナードデッキを何週か歩いてみた。

朝食はデッキ8のビュッフェレストランでいただく。特徴はチーズやハムといった乳製品の種類がとても豊富であること、そしてパンが美味しい。今朝は一組のご夫婦と相席となった。私から「I am sorry, I can't speak German」と話してみた。その一言から会話が弾んだ。奥様が英語が話せた。このクルーズはアイスランドとグリーンランドを巡る1ヶ月にも及ぶロングクルーズなのだが、ご夫婦は今まで長い休みが取れなかったため、とても楽しみにしていたそうだ。きっとお二人には思い出深い船旅になることだろう。

心地いい気候のせいか、すぐに眠気が襲ってくる。どこか日本にいたときの連日猛暑の疲れが残っている気がする。そんなときはキャビンに戻ればすぐに横になれる。それがクルーズの良い所だ。

夕方、レセプションのあたりに長い列が出来ていた。今日はフォーマルナイト、キャプテンとの記念撮影への列だった。午後7時からは、ショーなどが行われるアトランティックラウンジでキャプテン主催のウェルカムパーティー。キャプテンの乾杯の音頭とともに



洋上での優雅なゴルフ。海に向かってのショットは爽快そのもの。巧みなレイアウトのバターゴルフはなかなか倒れない。



朝食ビュッフェの一角、ハムやチーズのバリエーションが豊富なところがドイツ船の特徴。



船客たちのシャンペングラスが軽やかな音を立てる。ラウンジ内には、これからアイスランド、グリーンランドへと向かうロングクルーズへの、船客の期待と高揚感が満ちていた。

この晩以降、ディナーやバーで酒を飲んでいるときなど、急にいろんなドイツ人船客から声をかけられるようになった。どうやら1人だけ日本人が乗船している噂が広まったらしい。みな片言の英語で楽しい時間を過ごすことが出来た。ドイツ人船客、一見堅そうに見えるが実はとても親しみやすい。驚いたことに、彼らの大半はこの船がかつて日本で建造された「飛鳥」であることを知って乗船している。そして異口同音に、「この船はとても乗り心地がいい」と言ってくれる。この時ばかりはものづくりでは誰にも負けない日本人に生まれたことを、少し誇りに思えた。



デッキでのビュッフェランチは、手作りのとろけるようなスモークサーモンと生牡蠣に黒パン。ドイツ人もなかなか食には貪欲だ。



1991年長崎で建造された日本船だけに、キャビンの機能性は抜群。今ドイツマーケットで活躍するのは、ベルリッッククルーズガイドで4スタープラスを獲得するなど、高い評価を得ている。



終日航海日、英国シェトランド諸島の島影が見えてくる。アマデアはすでにかなりの地点まで北上している。航海は順調、乗り心地は抜群、さすが日本製である。



8/11 終日クルージング

この船に体が順応してきたのか、今朝は早く目が覚めた。後方のデッキで朝7時から出される紅茶のサービスをいただき、デッキを何週か歩いてみた。北へ向かう航路、今日は靄で視界が悪いのだが、その靄の合間から時折朝日が差し込んでくる。

昨晚バーで飲んでいると、ドイツ人ご夫婦から話しかけられた。ご主人は船のエンジニアで世界中を渡り歩き、神戸には何度も行ったと話してくれた。ドイツにはいくつかのクルーズ会社があるのだが、バーに居た何人かに質問してみたところ、その全員が「ハングロイドはサービスは素晴らしいがクルーズ料金が高すぎる。アイデアは船客2,000人以上の大型船で好きではない。このアマデアは程よいサイズで親しみやすく、値段も手ごろなので気に入っている」とのことだった。

午前11時、オープンデッキのアマデアゴルフクラブへ行く。「アマデア」のひとつの大きな楽しみは、このゴルフではないだろうか。

巧みにレイアウトされた9ホールのパターゴルフと、打ちっぱなしのケージ、さらには海に向かっての打ちっぱなしがある。そのボールはやがて海水で膨張してバラバラになり、魚のえさになるそうだ。ゴルフレッスンのプロも乗船している。したがってこの船に10日ぐらい乗れば、けっこう上達するかもしれない。

お昼前、後方のプールデッキに人が集まってきた。デッキでスモークサーモンや生牡蠣のシーフードランチが始まった。シェフが切り分ける作り立てのスモークサーモンは脂がのっていてとても美味しく、大変な人気だ。生牡蠣には少しレモンを絞って、白ワインと共にいただく。ドイツの船客は圧倒的に生ビールと一緒に食べている方が多い。とある女性が話しかけてきた。「あなた日本人よね。私たち来年の世界一周、大阪からニースまで乗船するのよ」とのこと。私も大阪からシンガポールまで乗船すると言うとすごく喜んでくれて、いっしょに記念撮影までせがまれた。来年の再会を楽しみにしたい。

午後になって、雲の切れ間から青空が見え始めた。絶好のクルー

ズ日和。左舷側に鋭い鉈でスパッと切ったような島影、英国シェトランド諸島だ。つまり「アマデア」はアイスランドまでのおおよそ中間地点までやって来たということ。それにしても洋上の時間はとても早く過ぎてゆく。退屈している暇など全然ない。この船には立派なスパがあり、フィットネスジム、美容院、マッサージルーム、サウナなどが備わっている。私は久しぶりにサウナへ行ってみた。更衣室は男女別なのだが、サウナは男女共用で、しかもドイツの船客は何も身につけないのだ。さすがにこれには驚いた。すでに女性が入っているアロマサウナへ勇気を持って真っ裸で入るも、相手は意に介することもなく平然としている。そしてさらにドイツ人男性女性が入ってくる。ある意味、すごい習慣だと思う。

ディナーの後、今日はショーはやめにして読書とした。「アマデア」には「飛鳥」の時代そのままの立派なライブラリがあり、でっぷりとした革張りのソファに座ると実にリラックスできる。そしてここは少しエアコンが強いのも私にはいい。時にはショーも見ず、バーにも行かず、自分の静寂の時間を持つのもいい。P.B.

INFORMATION

2013年春、「アマデア」が久々に日本に凱旋帰港する。145日間にもおよぶ世界一周の途中で、2月26日バンクーバー発～大阪27泊のほか、3月25日大阪発で、基隆へ7泊、シンガポールへ17泊の区間乗船が販売される。飛鳥の時代に乗船した人には懐かしい再会。好評発売中につき、良い部屋はお早めに。

2013年 初代飛鳥「アマデア」 日本凱旋帰港クルーズ

2/26 発	バンクーバー - 大阪 27泊	5,999ユーロ～
	(日本からバンクーバーへの航空券付)	
3/25 発	大阪 - シンガポール 17泊	3,999ユーロ～
	(シンガポールから日本への航空券付)	
3/25 発	大阪 - 基隆 (台北) 7泊	1,849ユーロ～
4/1 発	基隆 - シンガポール 10泊	2,363ユーロ～

■問い合わせ先：マーキュリートラベル TEL: 045-664-4268

Profile

東山真明

海と船の旅をこよなく愛する、海外クルーズエージェント。大型客船よりも、プライベート感ある上質な「ヨットスタイル」のクルーズにこだわり、国内で小型船クルーズを取り扱う4社による「スモールシップ アライアンス」に加盟、その啓蒙に励む。マーキュリートラベル代表。

■マーキュリートラベル TEL: 045-664-4268

<http://www.mercury-travel.com>